



放流のあとはクルージング

第21回金沢漁港放流祭り

地元の小学生が放流体験「魚の大切さ学ぶ」

東京湾・金沢漁港

6月27日(木)、東京湾金沢八景の金沢漁港で「第21回金沢漁港放流祭り」が



関東学院六浦小学校の児童たち



放流魚の説明をする今井さん

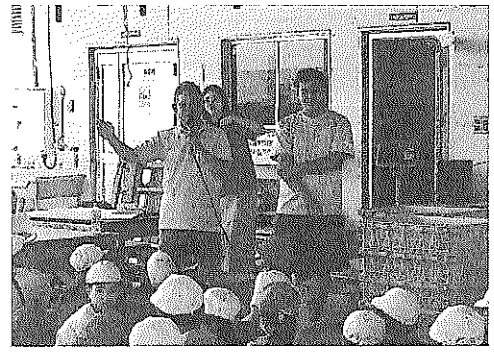
このイベントは資源保護活動の一環としてスタートし、今年で21回を数える。金沢小学校、関東学院六浦小学校の各5年生に参加を呼びかけ、遊漁船に乗船してのヒラメなどの稚魚放流体験を通して、栽培漁業への理解と水産資源の大切さを広く啓蒙することが目的。今回は6センチヒラメ2000尾と5センチヒラメ3000尾の稚魚が放流された。

9時前、金沢小学校の

児童72人が徒歩で到着。公益財団法人神奈川県栽培漁業協会専務理事の今井利為・水産学博士が放流魚の各魚種の成長など写真を見せながらわかりやすく解説。のち緑川船長から乗船に際しての諸注意のあと、船長への質問があればと問われ、児童から「漁に出て一番獲れる魚は？」との問いに「アナゴ、ヒラメ、マコガレイなど」と答えたほか、活発に質疑応答が行われた。

その間、金沢漁港の船長や関係者は放流の準備。放流魚がバケツに仕

ヒラメ2000尾、メバル3000尾の稚魚放流



質問に答える組合員



大きくなってと願いをこめて

梅雨の晴れ間で日差しが強いなか、見送る人や僚船の同級生に手を振りながら帰港後、児童たちは今井さんや漁港関係者へ質問を投げかけてやりとがされ準備万端。児童たちは、順番に2隻の船に分かれて乗り込んで、航程5分ほどの八景島周辺で楽しかった。魚の大切さもわかりました。ありがとうございました。と児童からの感想があり、最後に関係者からお土産が手渡され散会となった。

同漁協では、今年9月1日に金沢漁港で夕祭りの開催予定とのこと。詳細は組合HP参照。
▼問い合わせ 横浜市漁業協同組合金沢支所 045(78)8929番 神奈川県栽培漁業協会 046(882)6980番
(本紙・岩下和弘)